

# 「創造的ツーリズム」が 本物の体験と感動を生む

## サンタフェ市とユネスコ創造都市による国際会議から

2008年9月28日〜10月2日、米国のサンタフェで創造的ツーリズムに関する第1回国際会議が開催された。ユネスコが提唱する創造都市を推進する上で原動力となる「創造的ツーリズム」という新しい概念について話し合う場となった。

レベッカ・ワーズバーガー  
Rebecca Wurzburger  
ニューメキシコ州サンタフェ市長代理



レベッカ・ワーズバーガー●行政学で博士号を取得。2002年サンタフェ市市会議員に当選、現在2期目。歴史的建築物の保存・活用を進めるコーナーストーン・コミュニティ・パートナーシップを設立。ニューメキシコ州で優れた功績を残した女性に贈られる知事賞の17人目の受賞者  
rebeccawrz@comcast.net

サンタフェ市の中心ロレットにあるホテル。先住民のプエブロ族が1000年以上にわたって住み続けていた村、タオス・プエブロを再現。タオス・プエブロは、赤褐色のアドビ煉瓦で作られた住居が有名で、ユネスコの世界遺産に登録されている 写真提供：筆者（以下も同じ）



サンタフェは多様な文化が花開き  
米国第3の芸術の町になった

2010年、サンタフェはスペイン人が初めて入植し、スペイン領ヌエボ・メヒコ（19世紀前半までつづいたヌエバ・エスパーニャ副王領の1州）の首都となつてから400周年を迎える。サンタフェがアメリカで最初にユネスコ創造都市ネットワークに登録される決め手となつたのは、この土地で古来より育まれてきた独特のアートである。

サンタフェは、豊富な文化を培ってきた歴史と、進取の精神に溢れる町。リオグランデ川沿いに集落を構えるアメリカ先住民のプエブロ族は、1000年以上にわたり独自の芸術的伝統を育んできた。16世紀後半には、スペイン人入植者がヨーロッパとメキシコから独特の芸術文化を持ちこんだ。そして20世紀初頭には、アメリカ東海岸から多くの画家や作家がやってきて、彼らの芸術がそれまでに育まれた芸術的伝統と融合した結果、サンタフェには実に多様な文化が花開き、ニューヨーク、ロサンゼルスに続くアメリカ第3の規模を誇る芸術の町に発展した。

近年では、現代美術、ニューメディア



**実際に触れることで創造力を刺激する  
本物の体験を得られる**

すでに06年には、6つの創造都市の代表者たちがサンタフェに集い、以下の定義に基づき、創造的ツーリズムの国際会議を開催することに合意している。

「創造的ツーリズムとは、芸術、遺産、または土地が持つ特質を積極的に学びながら本物の生きた体験をすることをする

ア、映画、デザイン、およびフォークアートが、クリエイティブ産業の経済的原動力として雇用の創出、資本の誘致、税収の確保、およびコミュニティにおける生活の質の向上に貢献している。芸術関連事業の売り上げだけでも年間2億ドルを超え、市はクリエイティブ産業の発展に力を注いでいる。

08年9月、サンタフェで、同市とユネスコの創造都市ネットワークに加盟する都市の主催による「創造的ツーリズム」に関する国際会議が開かれた。この会議では、創造的ツーリズムの意味、世界の創造都市が創造的ツーリズムの推進に協力する理由、また、創造的ツーリズムの経済効果について話し合われた。

目的とした旅であり、土地に住み、自身の文化を育んでいる人々と交流する機会をもたらす」

つまり、実際に触れることで (Hand-on)、創造力を刺激する (Creative) 本物の (Authentic) 体験を得られるということである。創造的ツーリズムがこうした3つの性質を備えているという点で、文化的ツーリズム、エコツーリズム、農業ツーリズムなどとは異なるが、他のツーリズムに対して競合するもの、あるいはまったく別物であると思えずよりは、他のツーリズムを向上させた一つの形態であると考えられるだろう。

現代は、創造的ツーリズムという新しい概念が力を発揮する時代だと言える。08年の今回の国際会議でも、この主張を十分に裏づける数々の講演が行なわれた。

ペンシルヴァニア州立大学名誉教授のジェフリー・ゴッドビー氏は、創造的ツーリズムが盛んになる3つの理由として、「創造的階級の台頭」、顧客に体験の場を与え、感動を得てもらおう「経験ビジネスの登場」、および「女性の地位の変化」を挙げ、「そうした旅行者にとってツーリズム（旅行）とは、

プエブロ族の伝統を受け継ぎつつも、現代的にアレンジされた陶器



何かからの逃避的な行為なのではなく、何かを追い求める行為なのだ。彼らは、美しさ、独自性、および本物としての価値を持つ何かを追い求めるのである」と語った。

また、創造的都市の先駆者として知られる都市計画家のチャールズ・ランドリー氏は、旅行者が追い求めるものとして、従来の文化的施設としての美術館、ギャラリー、劇場、およびショップの垣根を取り除き、地元独自のシンボル、活動、および土地の生産物を含む、文化とイマジネーションに

## ユネスコの「創造都市ネットワーク」とは

創造都市ネットワークは、第170回ユネスコ執行委員会での議論を受け、2004年10月からユネスコが始めたもの。先進国および途上国にある都市の社会、経済、文化の発展を図ることを目指し、ネットワークに加わる都市は、地元のクリエイティブな分野の振興に努め、文化的多様性へ向けたユネスコの使命について関心を分かち合う。

ネットワークに加盟する都市は16（2009年1月10日現在）。クライテリア（判定基準）に従って、下記の7つに分けられる。加盟後、その都市はユネスコの名前とロゴの使用が許される。また、ネットワークには無期限に留まることができ、脱退はユネスコに通知することでいつでも行なえる。各都市は、国内外および創造都市間の協力による政策や活動の履行について進捗を毎年ユネスコに報告する必要がある。加盟に値しなくなったと見なされると、ユネスコにより脱退が促されることもある。



- |   |   |
|---|---|
| <p><b>A ユネスコ・クラフト&amp;フォークアート都市</b><br/>アスワン(エジプト)<br/>サンタフェ(アメリカ)</p>  | <p><b>D ユネスコ文学都市</b><br/>エディンバラ(英国)<br/>メルボルン(オーストラリア)<br/>アイオワ(アメリカ)</p> |
| <p><b>B ユネスコ・デザイン都市</b><br/>ベルリン(ドイツ)<br/>プエノスアイレス(アルゼンチン)<br/>モントリオール(カナダ)<br/>名古屋(日本)<br/>神戸(日本)<br/>深圳(中国)</p> | <p><b>E ユネスコ音楽都市</b><br/>ボローニャ(イタリア)<br/>セビリア(スペイン)<br/>グラスゴー(英国)</p>     |
| <p><b>C ユネスコ食文化都市</b><br/>ボバヤン(コロンビア)</p>   | <p><b>F ユネスコ・メディアアート都市</b><br/>リヨン(フランス)</p>                              |
- \*もう1つのクライテリアであるユネスコ映画都市は現在、加盟なし

富んだ広範なリソースを、手工芸、製造業、およびサービス業に組み込むことの重要性について論じた。

世界的に景気が低迷する一方、見学や買い物だけでなく、「より以上の何か」、すなわちインタラクティブな（対話が生まれる）体験を求める旅行者の増加は、ツーリズムの業界により激しい競争をもたらす。これからは、顧客のニーズによりきめ細かく対応し、「体験」の機会をより多く提供する、また土地らしさを生かした本物志向の創造的な体験を提供できる旅にますます人

気が集まるだろう。

### 世界の各都市で培われた経験をすべての都市と共有する

今回の国際会議は、創造的な性質を持つ世界の各都市で培われた経験を、参加したすべての都市と共有することを最大の目的とし、3つの部門が用意された。

#### 部門① ユネスコが認定する創造都市…

これからの道のり

ユネスコに関する部門では、デザイン都市のモントリオールとプエノスア

イレス、音楽都市のボローニャとセビリア、クラフト&フォークアート都市のアスワンとサンタフェ、および文学都市のエディンバラにおける独自のクリエイティブ産業の発展が紹介された。さらに、カナダの創造都市ネットワークが、プロのデザイナーで構成される効果的なネットワークを立ち上げるために採用した具体的な戦略を紹介。どの都市にも共通していたのは、彼らが現実的な経済政策としてクリエイティブティを推進することに情熱を持ち、そうした政策を成功させるきちんとした裏づけを持っているという点だった。

#### 部門② クリエイティブな起業家たちと方法論

創造的のツーリズムを確立するには、コミュニティに存在するクリエイティブな企業を強化する必要がある。クリエイティブな起業家を扱った部門では、「アーティストツァー」「国際アート市場」「国際フェスティバル」「コミュニティの芸術資源の活用」「ニュージランドのクリエイティブな起業家」「地域の料理法と青物市」などのプレゼンテーションが行なわれ、地域の起業家たちの活動を向上させるツールの活用方法について、実際の「方法論」が紹介された。



国際会議と同時に開催されたワークショップから。上はワイズフル（道化）が参加者たちを夢の世界に誘い、大人向けの操り人形術、仮面の製作など体を使ったパフォーマンスに挑戦する機会を提供。左は伝統的なサルサ音楽を奏でているキューバからのミュージシャン

### 部門④ 創造的ツーリズムと経済発展

創造的ツーリズムと経済発展に関する部門では、創造的ツーリズムを活用した地域経済の構築に関する詳しい考察が行なわれ、「料理ツーリズム」「アメリカ先住民のアートに見るクリエイティブ産業モデル」「バルセロナにおける創造的ツーリズムの体験」「1年を通して観光客を魅了できる町づくり」など、多彩なテーマが取り上げられた。

最後に、「量のツーリズムから質のツーリズムへ」「コミュニティで芸術的空間をつくる方法」「アメリカにおける創造都市ネットワークの確立」「創造的ツーリズムのマーケティング」「訪問者体験の向上に関する実践者のモデルと手順」といったタイトルの対話形式のさまざまなワークショップが会議の出席者たちにより開催された。

### 同時開催のワークショップは 創造的ツーリズムの見本市となった

この会議の期間中、サンタフェ最大規模の美術・文化関連団体がワークショップを開催した。国際フォークアート博物館では魔よけのつくり方、オキフ美術館では水彩画とバステル画に関するワークショップが開かれた。デ

ジタル写真のワークショップでは、世界的に有名なサンタフェ写真工房が、サンタフェの風景、歴史的な建造物、文化が息づくこの町の奥深い美しさを紹介するなど創造的ツーリズムの見本市のようなものとなった。

ワークショップのなかには、サンタフェとニューメキシコ州北部の土着文化をテーマとして取り上げたものが多く見られた。たとえば、スペイン織土工芸センターでは、リオグランデ織りとスペインによる植民地支配の時代から伝わるベッドカバー用の刺繍の技術が披露され、歴史的な技術工芸が現代人の目の前に蘇った。ニューメキシコ州北部の織維工芸は、アメリカ先住民によって編み出された。その後、スペイン人入植者がこの地域に羊毛と織維技術を持ち込み、2つの文化が融合することで、独自の織維工芸の伝統技術が発達し、花開いたのである。

ほかにも、スパニッシュ・マーケット（サンタフェのフェスティバル）のアーティスト、レニーズ・マルティネス氏によるストロー・アップリケ（衣服や箱をわらで装飾したもの）のワークショップや、土、砂、水、わらを使って伝統的な日干しレンガのオープンを製

←ワークショップの一環として、グアテマラのアーティストがひょうたんで作品を制作。精密な装飾文様が施されている

↓サンタフェ料理学校ではこの地域に古くから伝わる独特の料理法を学び、おいしい料理を堪能。タマーリの味を知れば、地域の歴史をよく理解できる。都市計画家のチャールズ・ラントリーが挑戦



作し、それを使用したアメリカ先住民の料理法を体験するコーナーもあった。粘土陶器は、サンタフェ周辺の小さな村々に古くから伝わる工芸技術の一つであり、今ではサンタフェの歴史を知るための貴重な資料、この町の発祥を理解する上での手掛かりとなると見なされている。好評を博した陶器製品のワークショップでは、国際的な知名度を有し、教師として活躍するハイディ・ローウェン氏が町の一角に構えるスタジオを使い、粘土を使用した工芸品の製作方法を紹介。

雲母粘土は、光沢を持つ陶器を製作するための素材として珍重され、ニュー

メキシコに住むプエブロ族のアーティストもこの素材を古来より用いてきた。参加者は、ラ・モレーナ・アトワークスのインストラクターの協力を得て雲母粘土を使った陶器の製作に励んだ。

また、彫刻家リサ・ゴードン氏の案内で、参加者たちはテスキーガラス工芸製作所とシドニ製造場を訪問し、ガラス吹きの実演を体験した。

### 創造的ツーリズムの促進へ向けた実践と協力関係の持続

創造的ツーリズムを促進するため、サンタフェの次なる重要なステップは、今回の経験を、マストツーリズム（団体旅行）では得られない体験を求める旅行者たちに提供することだろう。2010年秋に400周年を迎えるにあたり、サンタフェは「Experience Creative Santa Fe（創造都市サンタフェを体験しよう）」という新しいウェブサイトを開設する。このウェブサイトは、サンタフ

エならではの本物志向の生きた体験について、旅行者たちに紹介する場となる。さらにサンタフェは、神戸、名古屋、アイオワ、メルボルン、グラスゴー、リヨン、深圳をはじめとする総計16カ所のユネスコの創造都市と協力関係を持続。会議終了後、本物志向のスーパーの開発をめぐる協議のため、アメリカ先住民のアーティストによる名古屋訪問など、4つの新しい計画が実行に移されている。もう一つのステップとして、創造的ツーリズムの国際的な促進を目的にした国際創造的ツーリズム協会の設立計画もある。

最後となったが、この記事をお読みになり、創造的ツーリズムに関する意見や、コミュニティ間の協力関係について新しい提案があれば、気軽にご連絡いただきたい。あなたの力もお貸しただければ、経済と文化を振興するための新しい道具としての創造的ツーリズムの発展に、ともに大きく寄与することができるはずである。そしてその道具は、ドナルド・ショーン氏の言葉を借りれば「良き通貨の発想（An Idea in Good Currency）」であり、これからもそうあり続けることだろう。

（原文は英語）